

# 松伏を知り 松伏を愛する 町民かるた まつぶし郷土かるたの遊び方

## 1. 競技をはじめる前に

この「かるた」は、町内の小・中学生並びに高校生のみなさんの協力によって作られたものです。かるたには、私たちが楽しく遊びながら、郷土松伏の歴史や人物、並びに産物や豊かな自然をよく知り、松伏町を愛する町民になってもらい、子どもから大人まで世代間交流を図るきっかけづくりとなるように願っています。

勝敗にこだわらず、ルールを守って礼儀正しく、仲よく遊びましょう。

## 2. 競技の仕方

- ①団体競技(3人が一組となり二組で競います。)
- ②個人競技(1人对1人で競います。)

### (1) 競技に用いる札

「まつぶし郷土かるた」読み札、取り札とも46枚です。

### (2) 競技に必要な係

- ① 進行係 1、2名  
競技を進めていくのですが、人数が少ない場合は、「読み手」がかねることがあります。
- ② 読み手 2、3名  
読み札を読む 各試合に1、2名
- ③ 審判員  
競技を公平に審判する。

### (3) 競技の準備

- ① 団体競技での遊び方  
3人ずつ向かい合って一列に並びます。この陣の幅は1.5メートル以内とし、この幅の中に3人が適当な間をおいて並びます。
- ② 持ち札  
進行係の合図でまん中の人ジャンケンをし、勝った者が札をよく切って23枚ずつに分けて、前におきます。ジャンケンに負けた者が先にどちらかをとり、勝った者はあとから取ります。
- ③ 札の並べ方  
取った札はそのまま並びかえず、自陣の前に、団体の場合は2段、個人の場合は3段にそれぞれ平均に並べます。両方の陣の間は、3センチはなし、各段の間及び左右の間は1センチほどあけ、札と選手のひざがしらとの間は20センチ以上あけます。
- ④ 記憶時間  
「かるた」を並べはじめてから3～5分間に取り札を記憶します。

### (4) 競技

- ① 記憶時間が終わると競技に入ります。
- ② 「読み手」が「から札・㊦」を2回読みます。これが予告になり、3回目に読む札から取りはじめます。  
(各札2回ずつ読みます。)
- ③ 取り札が最後の2枚になったら、どちらの札が残っても、横に30センチほどはなして並べ、各組の代表1名で、この札を争い、1枚を取った者が残りの1枚も取ります。
- ④ 札を取るときは、押さえても、はじいても、押しても、引いてもよいが、故意にとぼしてはいけません。札に指が早く触れた方が勝ちです。

### (5) 採点

得点の計算は、1枚1点とします。ただし、団体競技の場合は、次のような「やく札」があります。

「やく札」は、そろわなければ、1点として計算します。団体・個人とも同点の場合は、「から札・㊦」のある方が勝ちとします。

まち札 ㊦ ㊧ ㊨ の3枚で10点  
シンボル札 ㊩ ㊪ ㊫ の3枚で10点

## 3. 競技上の注意

- (1) 札を取るときは、両手を使ったり、腕づくで札を引っ張り合ってはいけません。札が読まれるまでは、手はひざの上に置き、札の上にかぶさらないようにし、札が読まれるまでは、線からひざやひじ、顔などが出てはいけません。
- (2) お手つき  
自分の陣でも、相手の陣でも、読まれた札でない札に手を触れたら「お手つき」として、取った札の中から1枚を相手に渡します。味方の3人が、それぞれ同時に「お手つき」をしても、相手に渡す札は「1枚」でよいのです。
- (3) あいこ  
両方の手が重なったら、下の手の者が取ります。同時の時には、自陣の者にゆずります。ただし、その札が「やく札」のときには、「審判あずかり」とします。
- (4) 札を取るときは、大きな声で「はい」と声を出して取りましょう。
- (5) 競技の始めと終わりには、お互いに「礼」をしましょう。
- (6) 相手に不満があっても直接「言い争い」をしないで、審判を通して意見を述べましょう。
- (7) 競技の方法や並べ方などを工夫して試合をしてみましょう。

平成19年1月発行

著 作：松伏町・松伏町教育委員会  
制作・発行：松伏町文化のまちづくり実行委員会  
〒343-0192 埼玉県松伏町松伏2424  
松伏町教育委員会社会教育課内  
電話 048-991-1808